

毎年5月は「春のこどもまんなか月間」

こども家庭庁では、子どもや子育て世帯を社会全体で支えていくため、5月5日のこどもの日から1週間を「こどもまんなか 児童福祉週間」と定め、こどもたちの健やかな育成について国民全体で考えることを呼び掛けています。

■2026年度「こどもまんなか 児童福祉週間」標語

「いこうぜ!みんな キラキラのあしたへ ゴーゴゴー!」

■中央図書館「春の図書館まつり」毎年5月5日は中央図書館で「春の図書館まつり」を開催しています(詳しくは22ページ)。

問 こども家庭センター 児童福祉係  
☎お太助フォン 47-1283  
☎ 47-1282

里山林整備事業 取組団体募集

「里山の景観回復・有害鳥獣が出にくい環境づくりのために里山林を整備する地域、団体」を募集します。ひろしまの森づくり県民税を活用するため里山林の整備にかかる費用負担はありません。

申込期限 5月29日(金)



申問 農林水産課 林業水産係  
☎お太助フォン 47-4022  
☎ 42-1003

広島県失語症者向け 意思疎通支援者養成研修

失語症者の自立と社会参加を図るため、支援者を養成する研修を開催します。

応募資格 受講後に失語症者の支援に携わることができる18歳以上の方

定員 30人 申込期限 6月26日(金)

時 7月26日(日)~12月6日(日)

全9回 ※オンライン研修含む  
所 広島市中区地域福祉センター、広島市安芸区地域福祉センター  
研修内容 講義や実技で、失語症者のコミュニケーションを助けるために必要な知識と技術を習得。修了者は広島県登録者名簿に登録されます。

申し込みフォーム



申問 広島県言語聴覚士会

意思疎通支援

☎ 080-3895-7678

☎ 082-961-3080

自衛官募集 ~平和を仕事にする~ 自衛隊可部募集案内所 ☎082-815-3980

募集項目	応募資格	受付期間	試験日
幹部候補生【第2回】 一般 専門(陸) 飛行(海)	22歳以上26歳未満で大学卒業程度の学力を有する方	4月22日(水)~6月5日(金)	《1次》6月13日(土)・14日(日) ※14日は海の飛行要員のみ 《2次》7月25日(土)~31日(金) 《3次(海の飛行要員のみ)》 9月3日(木)~7日(月)
幹部候補生【第2回】	20歳以上33歳未満の方	4月22日(水)~6月5日(金)	《1次》6月13日(土) 《2次》7月25日(土)~31日(金)
一般曹候補生【第1回】	18歳以上33歳未満の方 (32歳の方は、採用予定月の末日時点で33歳に達していない方)	3月1日(日)~5月7日(木)	《1次》5月16日(土)~24日(日) 《2次》6月13日(土)~28日(日)
任期制自衛官(陸・海・空)		年間を通じて行っております。 (詳細はお問い合わせください)	受付時にお知らせします。

※詳しい内容はホームページをご覧になるか、自衛隊可部募集案内所にお問い合わせください。本庁・各支所にパンフレットを置いてありますのでご利用ください。

広告

リサイクル品 骨董品 高価買取

元気なうちに 生前整理 遺品整理 しませんか?

買取成約率 90%

お家一軒丸ごと 整理いたします  
空き家整理 倉庫整理など

☎0120-66-1035  
これどうかな?と思ったらまずはお電話を!

なんでも鑑定 なごみや

公式LINE 公式Instagram

※広告内容に関する責任は、広告主に帰属します。

安芸高田 歴史紀行



安芸高田市歴史民俗博物館 学芸員 古川 恵子

シリーズ 「博物館コレクション」 第34回

御住館の米蔵瓦



棟先端の「鬼瓦」と思われる瓦 (高さ 27.9cm)

※個人蔵



軒の先端に使用されていた「軒丸瓦」 (奥行き 左27.8cm 右29.1cm)

※歴史民俗博物館蔵

今回紹介するのは、現在の吉田高校敷地内に幕末に存在していた「御住館」(「御本館」とも)の瓦です。

●「藩主の家紋」御住館

「御住館」は、広島藩の支藩、吉田新田藩の藩主浅野長厚の陣屋で、堀で囲まれた敷地には長厚の執務室や寝所を含む数十の部屋に加え、武具蔵や物置、米蔵などもありました。

●浅野家紋が刻まれた瓦

この瓦は石州瓦の流れをくむ赤瓦で、米蔵の屋根で使用されていたものと伝わっています。ゆう葉を用いて高温で焼きしめるため、凍結による割れに強く、現在でも安芸高田市はもろろん寒冷地で広く用いられています。

瓦にはいずれも羽を2つ斜めに重ねた浅野家の家紋「違い鷹の羽」があらわれています。

左側の軒丸瓦をよく見ると家紋の方向が90度ずれています。これは、瓦当(円形部分)と丸瓦をくっつける際、方向を間違えたためと思われる。



「御住館図」部分 ※歴史民俗博物館蔵

●御住館の建設とその後

吉田に御住館が建てられた理由の一つは幕末の緊迫した社会情勢の中で、内陸部にも藩の拠点が必要だったためです。加えて当時警戒していた北方からの暴徒の侵入などの事態も踏まえ、僻地だが土地がやや広く、山に囲まれた要害の地である吉田が選ばれたのです。御住館の背後の郡山城跡は、外敵に備えて要塞化する計画も立てられています。

御住館の着工は1863(文久3)年9月11日で、長厚一行が吉田に着したのが12月17日、仮館から御住館に移ったのが翌年5月15日という突貫工事でしたが、吉田の人々は日々出来上がっていく立派な建物に驚いたことでしょう。

しかし、完成から4年後、時代は明治となり、1869(明治2)年の版籍奉還により吉田支藩は広島藩に吸収され消滅しました。翌年長厚は吉田を去り、その後の御住館について詳細は分かりませんが、一時期吉田小学校の校舎として利用されました。同校の記念誌に掲載された回想録には「映画にでてくる御殿のようだった」と記されています。